



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

2023年3月期 第1四半期 決算説明会

取締役常務執行役員CFO 大門秀樹

2022年8月8日

**Institutional
Investor**
2022 JAPAN EXECUTIVE TEAM
MOST HONORED COMPANY
NISSAN CHEMICAL CORP.



Contents

01

2022年度第1四半期 連結決算報告 P3

02

2022年度第1四半期 セグメント概況 P11

03

2022年度通期 業績予想 P41

04

ESGトピックス P46

05

参考資料 P55

Contents

01

2022年度第1四半期 連結決算報告 P3

02

2022年度第1四半期 セグメント概況 P11

03

2022年度通期 業績予想 P41

04

ESGトピックス P46

05

参考資料 P55

1Q

前年同期比

- 売上高は、118億円増収(+25%)
- 営業利益は、54億円増益(+45%)
- 純利益は、51億円増益(+57%)
- **営業利益・経常利益・純利益は2年連続過去最高益を更新**

1Q

業績予想比

(2022年5月発表予想との比較)

- 売上高は、59億円上ぶれ
- 営業利益は、27億円上ぶれ
- 純利益は、27億円上ぶれ

株主還元の状況

- 自己株式取得 50億円完了(2022年5~6月、683千株)

業績予想の修正

- 2022年5月発表の上期及び通期業績予想を上方修正(p42参照)

2022年度1Q決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	465	583	+118 (+25%)
営業利益	119	173	+54 (+45%)
営業外損益	4	22	+18
経常利益	123	195	+72 (+58%)
特別損益	0	0	0
純利益※1	88	139	+51 (+57%)
EBITDA※2	142	197	+55
EPS(円/株)	61.73	98.13	+36.40
売上高営業利益率	25.5%	29.6%	+4.1pt
為替レート(円/ドル)	110	130	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	67	111	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

2022年度1Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	524	583	+59
営業利益	146	173	+27
営業外損益	6	22	+16
経常利益	152	195	+43
特別損益	3	0	-3
純利益※1	112	139	+27
EBITDA※2	-	197	-
EPS(円/株)	-	98.13	-
売上高営業利益率	27.9%	29.6%	+1.7pt
為替レート(円/ドル)	115	130	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	88	111	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

1Q

	2022年度 実績	2021年度 実績	前年同期比	業績予想	業績予想比
	173 億円	119 億円	+54 億円(+45%)	146 億円	+27 億円
化学品	前年同期比 +4億円	価格上昇によりメラミン・テピック増収			
	業績予想比 1億円上ぶれ	価格上昇によりメラミン・テピック上ぶれ			
機能性材料	前年同期比 +10億円	半導体の増収			
	業績予想比 8億円上ぶれ	半導体の好調、固定費の下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ			
農業化学品	前年同期比 +28億円	フルララネル(原薬とロイヤリティ)・ラウンドアップ・タルガ・グレーシアの増収			
	業績予想比 11億円上ぶれ	タルガ・ラウンドアップ・ダイセンの上ぶれ、固定費の下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ			
ヘルスケア	前年同期比 +5億円	リバロ・ファインテック増収			
	業績予想比 2億円上ぶれ	リバロ・ファインテック上ぶれ			

営業外損益・特別損益の内訳

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比	(億円) 2022年度 1Q予想 (2022年5月作成、 予想値は非開示)
営業外収益	6.3	24.2	+17.9	7.6
受取利息・配当金	2.7	3.1	+0.4	3.0
為替差益	0.0	16.9	+16.9	0.0
持分法投資損益 他	3.6	4.2	+0.6	4.6
営業外費用	1.9	1.9	0.0	1.6
支払利息	0.3	0.4	+0.1	0.3
為替差損	0.1	0.0	-0.1	0.0
固定資産処分損 他	1.5	1.5	0.0	1.3
営業外損益	4.4	22.3	+17.9	6.0
特別利益	0.0	0.0	0.0	2.5
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益※1	0.0	0.0	0.0	2.5

※1 2022年度1Q予想：
特別利益+2.5億円(有価証券売却益2.5億円)

2022年度1Q実績のフリー・キャッシュ・フローは88億円となり、前年同期比3億円の増加

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	118	131	+13
税金等調整前純利益	123	195	+72
特別損益(マイナスは益)	0	0	0
減価償却費※1	22	25	+3
法人税等の支払	-71	-75	-4
運転資金増減他	44	-14	-58
投資活動によるキャッシュ・フロー	-33	-43	-10
設備投資	-28	-34	-6
投資有価証券購入・売却	-1	-4	-3
その他	-4	-5	-1
フリー・キャッシュ・フロー	85	88	+3
財務活動によるキャッシュ・フロー	-238	-180	+58
株主還元(配当)	-83	-102	-19
株主還元(自己株式取得)	-48	-50	-2
借入金増減	-84	-27	+57
その他	-23	-1	+22
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	8	+8
現金及び現金同等物の増減額	-153	-84	+69
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	0	31	+31
現金及び現金同等物の残高	171	294	+123

※1 のれん償却費を含む

(億円)

	2021年6月末	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
流動資産	1,422	1,753	1,726	-27
現預金	171	347	294	-53
売上債権	664	800	800	0
たな卸資産	498	522	558	+36
その他	89	84	74	-10
固定資産	1,044	1,044	1,046	+2
有形固定資産	515	532	569	+37
無形固定資産	122	118	120	+2
投資有価証券	349	302	298	-4
その他	58	92	59	-33
資産合計	2,466	2,797	2,772	-25

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2021年6月末	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
上場株式※1	231	189	193	+4
(単体ベース保有銘柄数)	(31)	(30)	(30)	(0)
非上場株式	28	26	31	+5
関係会社株式	90	87	74	-13
合計	349	302	298	-4

純資産に占める 政策保有株式の割合※4	12.2%	9.5%	9.9%
------------------------	-------	------	------

	2021年6月末	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
負債	527	717	675	-42
買入債務	157	190	185	-5
借入金	142	227	206	-21
その他	228	300	284	-16
純資産	1,939	2,080	2,097	+17
株主資本※2	1,811	1,967	1,955	-12
その他有価証券評価差額金	105	83	86	+3
為替換算調整勘定	1	9	22	+13
非支配株主持分	18	21	30	+9
退職給付に係る調整累計額	4	0	4	+4
負債純資産合計	2,466	2,797	2,772	-25

自己資本比率	77.9%	73.6%	74.5%
D/Eレシオ※3	-1.6%	-6.1%	-4.5%

※1 22/3末 189 + 取得0 + 売却・評価差額4 = 22/6末 193

※2 株主資本増減 -12 = 純利益139 - 配当その他151

※3 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)
各期の政策保有株式(単体、億円)は、21/6末 237、22/3末 198、22/6末 207

Contents

01

2022年度第1四半期 連結決算報告 P3

02

2022年度第1四半期 セグメント概況 P11

03

2022年度通期 業績予想 P41

04

ESGトピックス P46

05

参考資料 P55

セグメント別 2022年度1Q決算 前年同期比

(億円)

		2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
化学品	売上高	88	104	+16 (+18%)
	営業利益	13	17	+4 (+36%)
機能性材料	売上高	200	218	+18 (+9%)
	営業利益	69	79	+10 (+14%)
農業化学品	売上高	134	197	+63 (+47%)
	営業利益	40	68	+28 (+69%)
ヘルスケア	売上高	11	17	+6 (+55%)
	営業利益	3	8	+5 (+153%)
卸売・その他・調整額	売上高	32	47	+15
	営業利益	-6	1	+7
合計	売上高	465	583	+118 (+25%)
	営業利益	119	173	+54 (+45%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか(内訳はp66,p67参照)

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

セグメント別 2022年度1Q決算 業績予想比

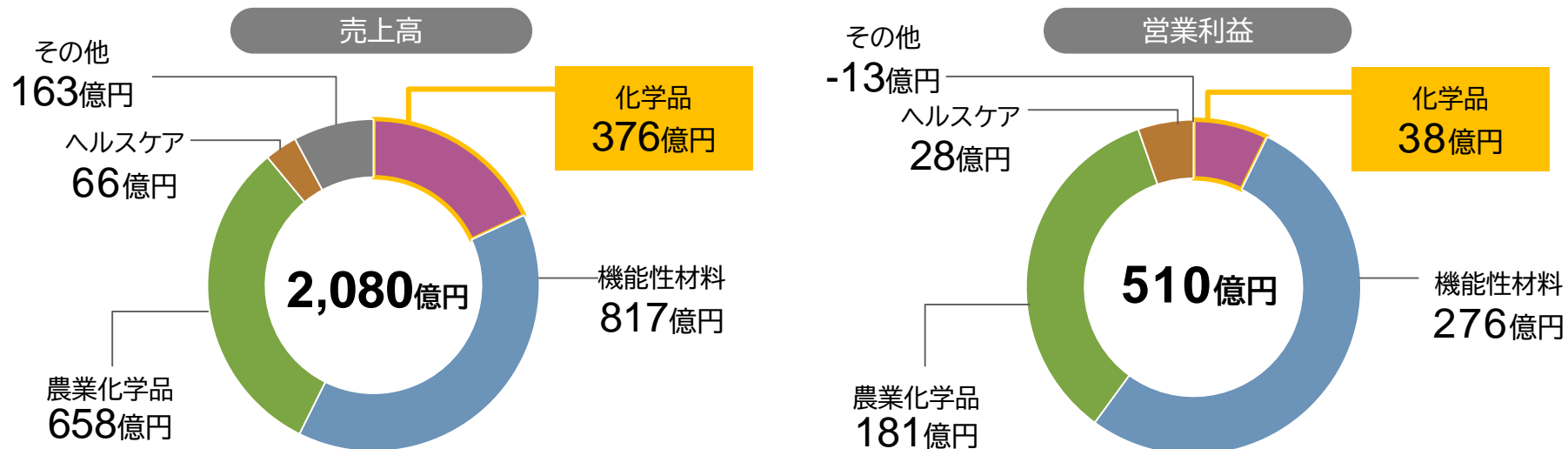
(億円)

		2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
化学品	売上高	102	104	+2
	営業利益	16	17	+1
機能性材料	売上高	212	218	+6
	営業利益	71	79	+8
農業化学品	売上高	172	197	+25
	営業利益	57	68	+11
ヘルスケア	売上高	16	17	+1
	営業利益	6	8	+2
卸売・その他・調整額	売上高	22	47	+25
	営業利益	-4	1	+5
合計	売上高	524	583	+59
	営業利益	146	173	+27

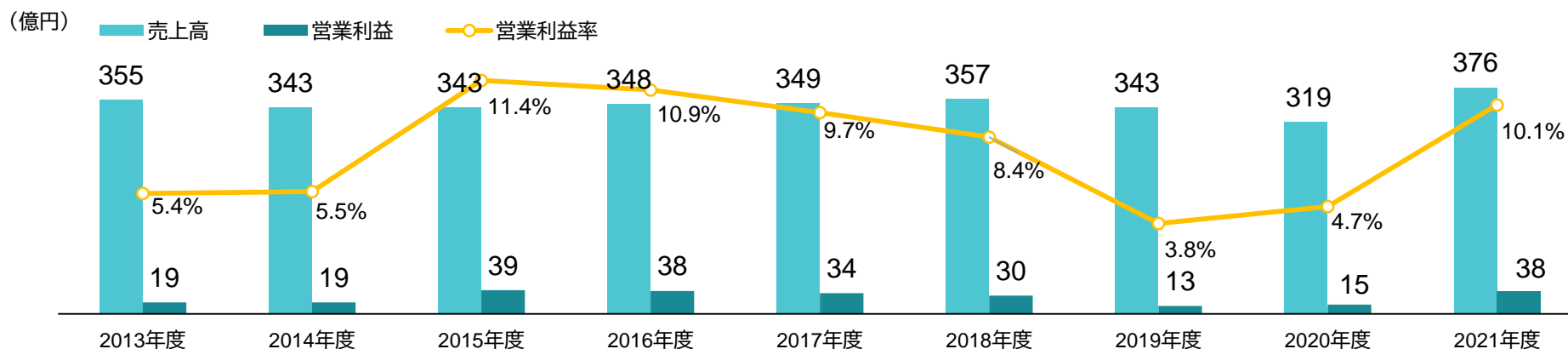
※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか(内訳はp66,p67参照)

2021年度セグメント別業績※



化学品セグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み (p38,p39参照)

- ファインケミカルは、1Qで30%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 基礎化学品は、1Qで11%増収、業績予想比では下ぶれ

主要製品	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成 予想値は非開示)
テピック	+43%	上ぶれ
環境化学品	+10%	下ぶれ
ファインオキシコール	+44%	上ぶれ
ファインケミカル合計※1	+30%	上ぶれ
メラミン	+50%	上ぶれ
尿素・アドブルー®	+53%	上ぶれ
高純度硫酸	+2%	予想通り
硝酸製品※2	-33%	下ぶれ
基礎化学品合計※3	+11%	下ぶれ
化学品セグメント合計	+18%	上ぶれ

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2022年度1Q実績ファインケミカル売上高に占める割合: 88%

※2 2022年4月から6月に硝酸プラントトラブル停止、6月17日出荷再開 (損失試算)2022年1Q 6.7億円、2Q 3.2億円、上期 9.9億円

※3 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2022年度1Q実績基礎化学品売上高に占める割合: 59%

【1Q】売上高+16億円、営業利益+4億円

	(億円)		
	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	88	104	+16
ファインケミカル	32	42	+10
基礎化学品	56	62	+6
営業利益	13	17	+4

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

【1Q】増収・増益

ファイン
ケミカル

- テピック一般 価格上昇で増収
 - テピック電材 減収
 - 環境化学品 価格上昇で増収
 - ファインオキシコール 化粧品用途回復で増収
- 原燃料高、運送費高騰(減益要因)

【1Q】増収・増益

基礎
化学品

- メラミン 価格上昇で増収
 - 尿素・アドブルー® 価格上昇で増収
 - 高純度硫酸 増収
 - 硝酸製品 硝酸プラントトラブルで減収(p15参照)
- 原燃料高(減益要因)、運送費減少(増益要因)、
固定費増加3億円、在庫変動影響3億円(増益要因)

【1Q】売上高+2億円、営業利益+1億円

硝酸プラントトラブルにもかかわらず、業績予想比利益上ぶれ

(億円)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	102	104	+2
ファインケミカル	37	42	+5
基礎化学品	65	62	-3
営業利益	16	17	+1

【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

ファイン
ケミカル

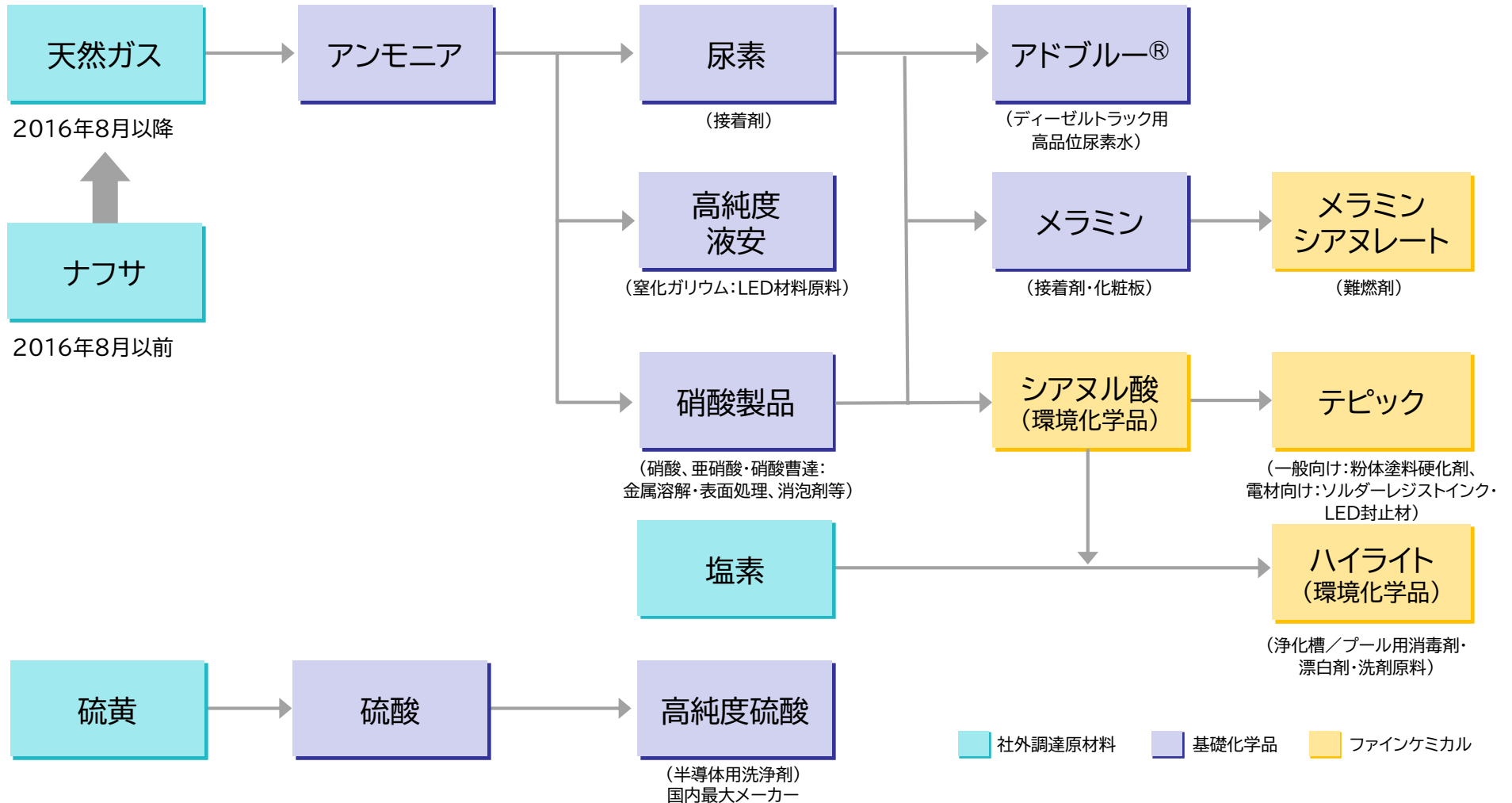
- テピック一般 価格上昇により売上高上ぶれ
 - テピック電材 売上高下ぶれ
 - 環境化学品 売上高下ぶれ
(硝酸プラントトラブル影響、p15参照)
 - ファインオキシコール 化粧品用途好調で上ぶれ
- 原燃料高(減益要因)

【1Q】売上高・営業利益とも下ぶれ

基礎
化学品

- メラミン 価格上昇で売上高上ぶれ
 - 尿素・アドブルー® 価格上昇で売上高上ぶれ
 - 高純度硫酸 売上高予想通り
 - 硝酸製品 硝酸プラントトラブルで売上高下ぶれ
(p15参照)
- 原燃料高(減益要因)、運送費下ぶれ(増益要因)、
固定費増加3億円

- 主要製品は、アンモニア系と硫酸系
- 2021年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%
- 規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力



- 2021年8月発表通り、2022年6月にメラミン生産を停止
- 今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中

1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2021年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	925(66%)	19(20%)	アンモニア、尿素・アドブルー®、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系	470(34%)	77(80%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,395(100%)	96(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難でリスクの大きい事業、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

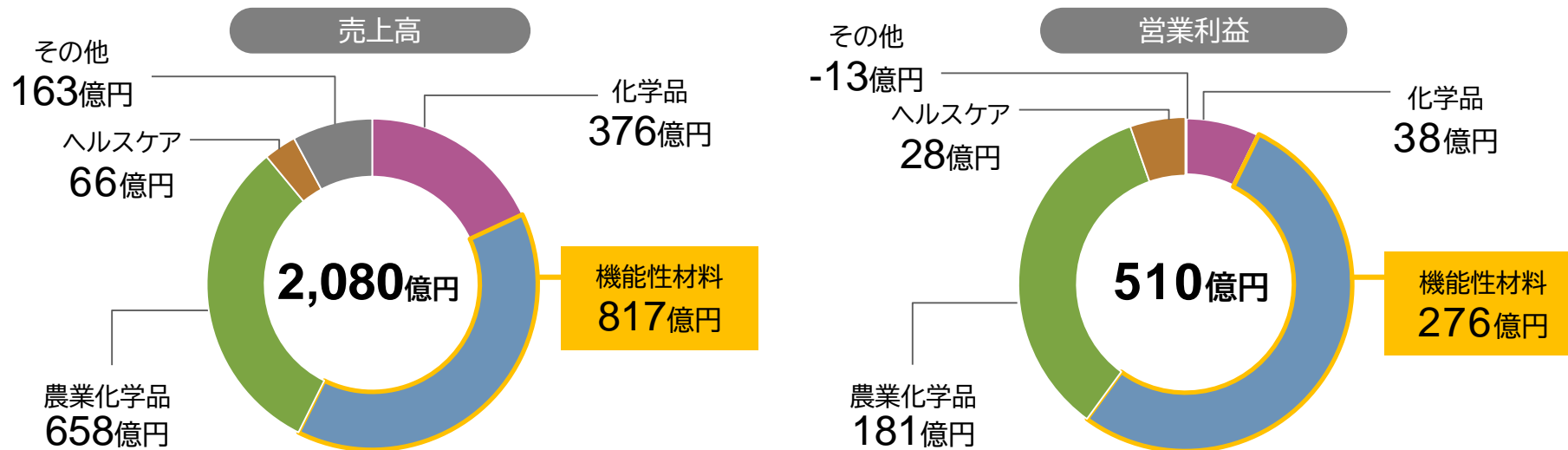
4. 構造改革費用

メラミン停止関連諸費用(特別損失17.9億円)は投資有価証券売却益でカバー済み(2021年2Q計上)

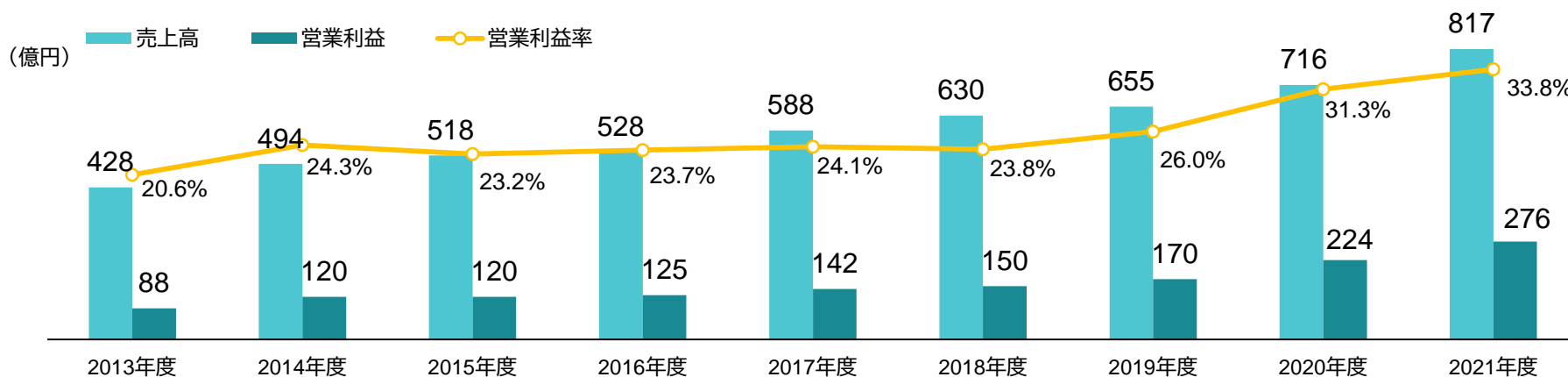
5. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン
→2018年度実績の約7%に相当(p47参照)

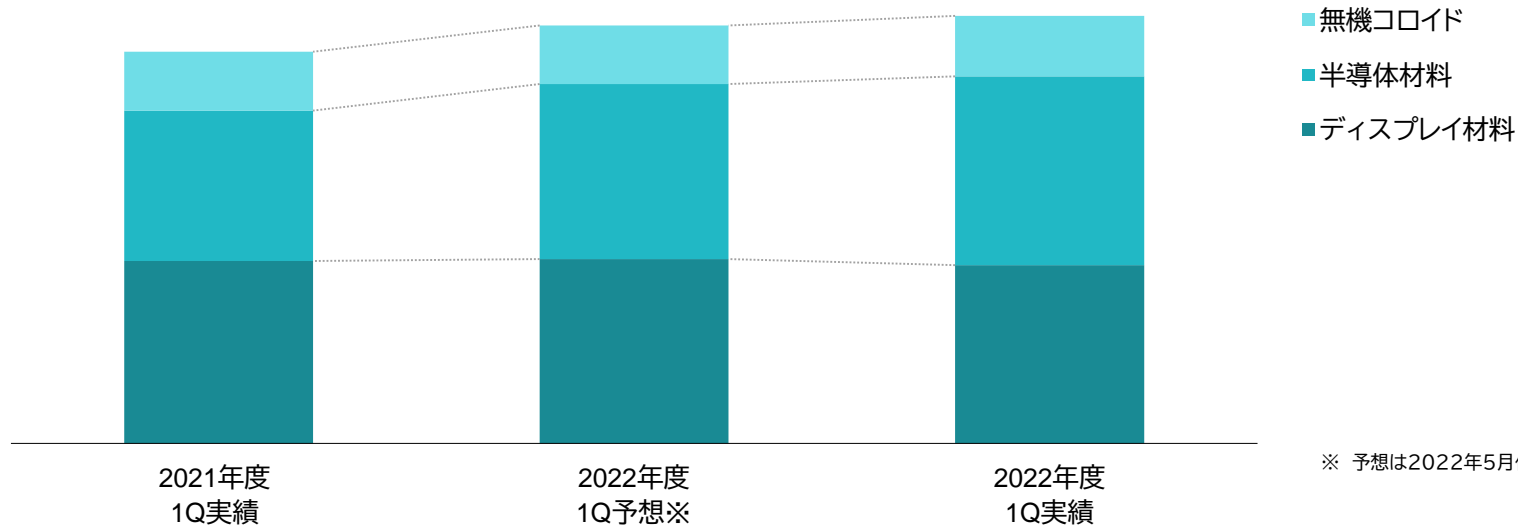
2021年度セグメント別業績※



機能性材料セグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み (p38,p39参照)



※ 予想は2022年5月作成。予想値は非開示

主要製品

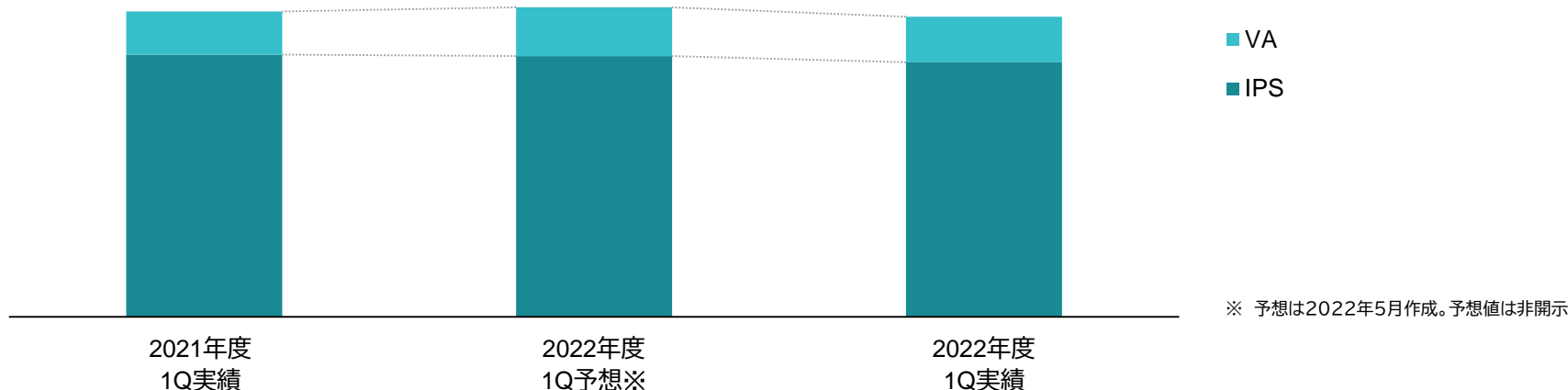
ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエバー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		その他新材料	EUV材料、三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料等	オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材

- ディ스플레이材料は、1Qで2%減収、業績予想比でも下ぶれ
- 半導体材料は、1Qで25%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 無機コロイドは、1Qで2%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成・ 予想値は非開示)
サンエバー	-2%	下ぶれ
ディスプレイ材料合計	-2%	下ぶれ
ARC [®] 小計	KrF (ARC [®])	+10% 予想通り
	ArF (ARC [®])	+31% 上ぶれ
ARC [®] 小計	+25%	上ぶれ
その他半導体材料合計※	+26%	上ぶれ
半導体材料合計	+25%	上ぶれ
スノーテックス	+2%	上ぶれ
オルガノゾル・ モノマーゾル	+3%	上ぶれ
オイル&ガス材料	+47%	上ぶれ
無機コロイド合計	+2%	上ぶれ
機能性材料セグメント合計	+9%	上ぶれ

※ 多層材料 (OptiStack[®])、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料等

光IPSは前年同期比で増収、業績予想比でも上ぶれだが、サンエバー合計では2%減収、業績予想比でも下ぶれ



主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター

モード別売上高成長率

	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成・予想値は非開示)
VA	増収(+0 ~ +9%)	下ぶれ
IPS	減収(-0 ~ -9%)	下ぶれ
サンエバー合計(TN※含む)	-2%	下ぶれ

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

【1Q】売上高+18億円、営業利益+10億円

	(億円)		
	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	200	218	+18
営業利益	69	79	+10

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

【1Q】減収・利益横ばい

ディスプレイ

- 光IPS 増収(非スマホ好調)
- ラビングIPS 減収
- VA 増収

【1Q】増収・増益

半導体

- ARC® 増収
- その他 増収(多層材料・その他新材料※増収)

市場全般好調、固定費増加1億円

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計

【1Q】増収・増益

無機
コロイド

- スノーテックス 増収(一般用途・研磨材ともに増収)
- オルガノ・モノマーゾル 増収
- オイル&ガス材料 増収

固定費減少1億円

【1Q】売上高+6億円、営業利益+8億円、固定費下ぶれ合計3億円(増益要因)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	212	218	+6
営業利益	71	79	+8

(億円)

ディスプレイ

【1Q】売上高下ぶれ・営業利益上ぶれ

- 光IPS 売上高上ぶれ
- ラビングIPS 売上高下ぶれ
- VA 売上高下ぶれ
- 固定費下ぶれ1億円(増益要因)

半導体

【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

- ARC® 売上高上ぶれ
- その他 売上高上ぶれ(多層材料・その他新材料※上ぶれ)

市場全般好調、固定費下ぶれ2億円(増益要因)

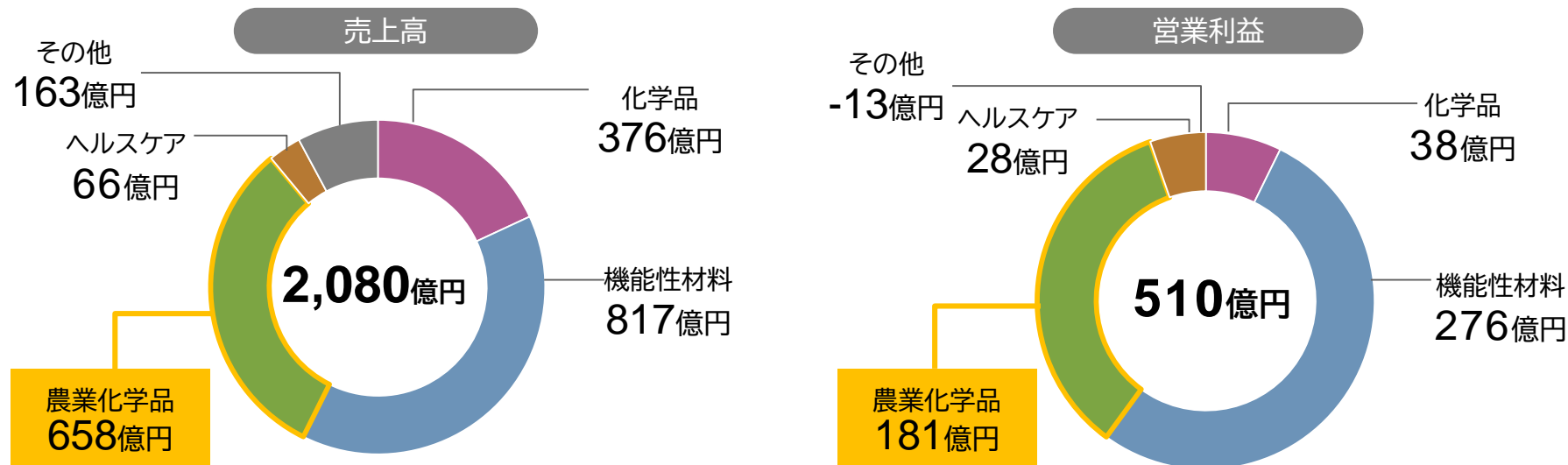
※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材の合計

無機コロイド

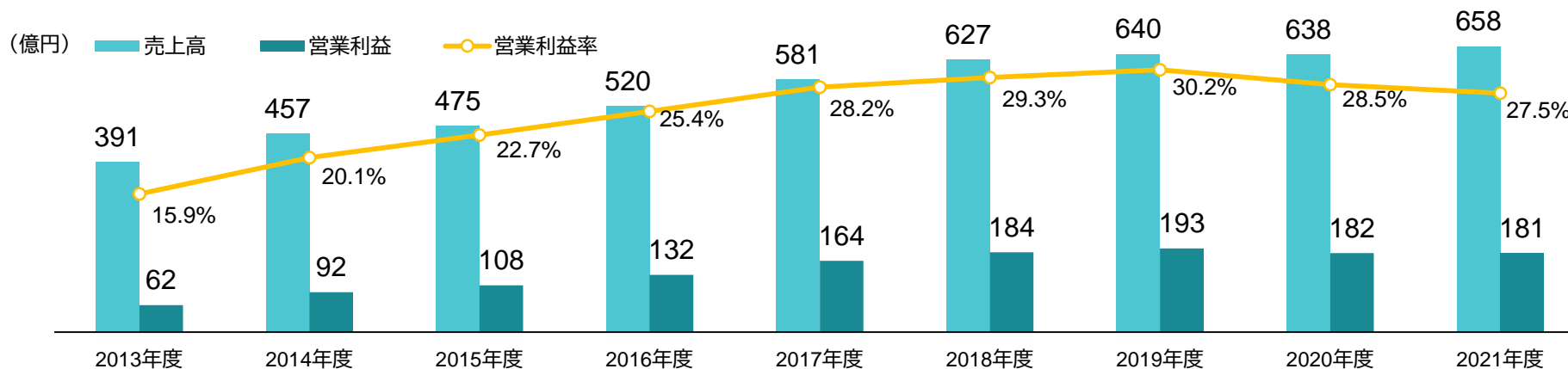
【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

- スノーテックス 売上高上ぶれ(一般用途・研磨材ともに上ぶれ)
- オルガノ・モノマーゾル 売上高上ぶれ
- オイル&ガス材料 売上高上ぶれ

2021年度セグメント別業績※



農業化学品セグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

1Qで47%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品名 (2021年度 売上高順)	種類	前年同期比 (1Q)	業績予想比 (2022年5月作成、 予想値は非開示)
ラウンドアップ※1	除草剤	+22%	上ぶれ
フルララネル	動物薬	+55%	上ぶれ
アルテア	除草剤	+27%	上ぶれ
タルガ	除草剤	+89%	上ぶれ
ダイセン	殺菌剤	+37%	上ぶれ
パーミット	除草剤	+59%	上ぶれ
ライメイ	殺菌剤	+208%	上ぶれ
グレーシア	殺虫剤	+216%	上ぶれ
クインテック	殺菌剤	-97%	下ぶれ
セグメント合計※2	-	+47%	上ぶれ

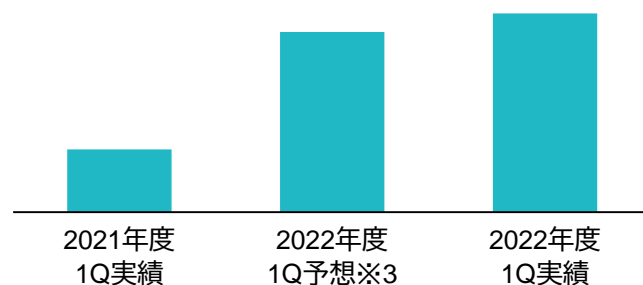
参考

- 国内農薬販売 第1位
(2019年10月～2020年9月)

[ラウンドアップの現状説明会資料](#) 
(2020年1月22日発表)

- ※1 ラウンドアップALは、2022年度1Qのラウンドアップ売上高全体の32%を占める
- ※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

グレーシア売上高



参考

2021年度 決算説明資料(2022年5月13日発表)
p40 グレーシア売上高成長予想

※3 2022年5月作成。予想値は非開示

【1Q】売上高+63億円、営業利益+28億円、固定費増加3億円、在庫変動影響7億円(増益要因)

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	134	197	+63
営業利益	40	68	+28

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

主要製品

ラウンドアップ(除草剤)	増収(ML・ALともに価格上昇、数量増)
フルラネル(動物薬)	増収(原薬出荷の2021年度からの後ろ倒し、顧客在庫調整終了、ロイヤリティ収入堅調)
アルテア(除草剤)	増収(国内・輸出ともに増収)
タルガ(除草剤)	増収(2Qからの一部出荷前倒し、需要増)
ダイセン(殺菌剤)	増収(輸出)
パーミット(除草剤)	増収
ライメイ(殺菌剤)	増収(欧州での混合剤用途向け販売により輸出増収)
グレーシア(殺虫剤)	増収(国内:流通在庫解消により増収、輸出:インド・インドネシアでの拡販および韓国での販売回復により増収)
クインテック(殺菌剤)	減収(2Qへ出荷後ろ倒し)

【1Q】売上高+25億円、営業利益+11億円、固定費下ぶれ4億円・在庫変動影響+2億円(ともに増益要因)

(億円)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	172	197	+25
営業利益	57	68	+11

主要製品

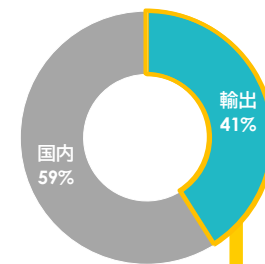
- ラウンドアップ(除草剤) 売上高上ぶれ(ML:上ぶれ、AL:予想通り)
- フルララネル(動物薬) 売上高上ぶれ(ロイヤリティ収入上ぶれ)
- アルテア(除草剤) 売上高上ぶれ
- タルガ(除草剤) 売上高上ぶれ(2Qからの一部出荷前倒し、需要増)
- ダイセン(殺菌剤) 売上高上ぶれ(2021年度からの一部出荷後ろ倒し)
- パーミット(除草剤) 売上高上ぶれ
- ライメイ(殺菌剤) 売上高上ぶれ(2021年度からの一部出荷後ろ倒し、需要増)
- グレーシア(殺虫剤) 売上高上ぶれ(インド・インドネシア向け拡販)
- クインテック(殺菌剤) 売上高下ぶれ(2Qへ出荷後ろ倒し)

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバゾン	殺虫剤	導入	米国デュボン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AIⅡ、2018年AIⅢ上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社*1向けにプラバクト原薬として出荷開始
2014	プラバクト*2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイスシンジェンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ビレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト*2	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイカや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2025	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

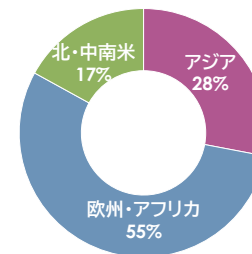
既存製品

新製品・パイプライン

農業化学品セグメントの輸出比率(2021年度実績)*3



- 地域別分布



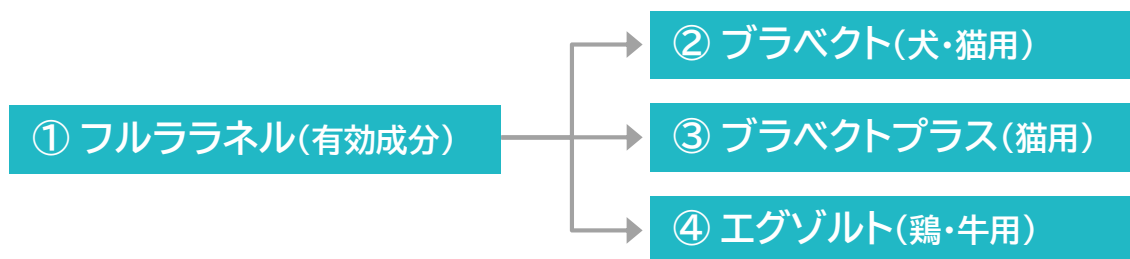
新製品群のピーク時売上高目標合計
310億円

*1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

*2 プラバクト・エグゾルト:MSD社の販売製品名

*3 フルララネルを含める

当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクトシリーズ・エグゾルトは現在100か国以上で販売中



① フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト・エグゾルトの有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

② ブラベクト(BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常**1か月毎**に投薬する既存製品より殺虫効果の**持続性が長く、12週間※2**にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - (猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
 - (犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

③ ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け内外部寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

④ エグゾルト(EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年3月ブラジル、5月メキシコ販売承認

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

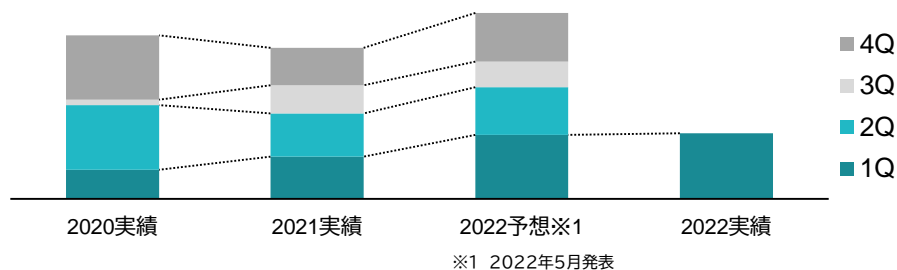
※2 クリイロコイタマダニは8週間

当社のフルララネル売上高の構成

MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

2020～2022年度 四半期別売上高推移

(RR収入含む)



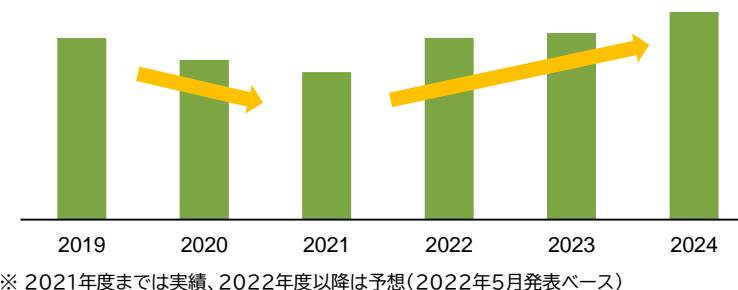
ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にともない、2021年度からは各四半期に計上されている(p68参照)

ブラベクトの拡大に向けたMSD社の開発状況

ペット向けの新たな内外外部寄生虫薬、家畜向け経皮投与剤等を開発中

2019～2024年度 売上高推移イメージ(RR収入含む)

(2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし)



- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しもあり、大幅増収を計画。想定為替レートは115円/ドル
- ・2023年度以降の想定為替レートは110円/ドル
- ・中計2027年度は、国別の特許の延長・失効の予想(p31参照)を織り込み、ブラベクト新規開発剤上市に伴う販売増は織り込んでいない

剤の買収・導入による製品ポートフォリオの拡充を進める
(2021年5月発表 2020年度決算説明資料から変更なし)

クインテック(キノキシフェン)

- クインテックはキノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2019年11月 米国コルテバ社より事業を買収
- 2019年12月 販売開始
- 果樹や野菜用の殺菌剤として流通。主な市場は米国
- 果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

ダイセン(マンゼブ)

- ダイセンはマンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2020年12月 米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- 2021年1月 国内販売開始
- 果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用の保護殺菌剤として流通。耐雨性に優れる

- 監査後無形固定資産の償却期間は、資産の種類別に5年・16年(定額法)(加重平均15.6年)で確定(監査前は5年で仮計算)

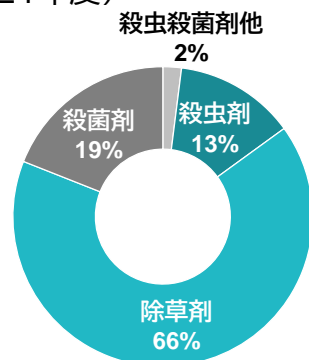
ダイセン収益予想

(億円)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	3	4
2021	7	11
2022-26 累計	36	53

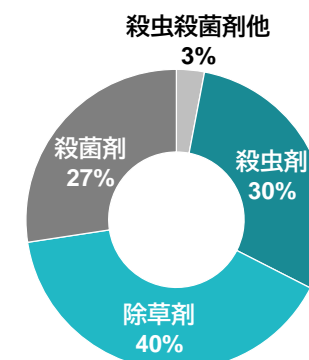
農薬製品ポートフォリオ

当社の農薬売上高構成比(2021年度)



【参考】

グローバル農薬市場売上高構成比(2020年1-12月)



- グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指し、新たな原体生産拠点を設立
- 2022年度よりNBRを連結子会社に追加
- 工場稼働は、2022年度4Qの予定(一部機器納入遅れにより、当初2022年度2Qから変更)

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ、クインテック等)原体を製造し、当社へ販売
従業員数	150-200名(2022年想定)
工場稼働予定	2022年度4Q
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

資金計画 (2022年5月発表時点)

(億円)

設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

当社連結営業利益への貢献予想(概算)

(億円)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
営業利益	-	-2	10	24	29

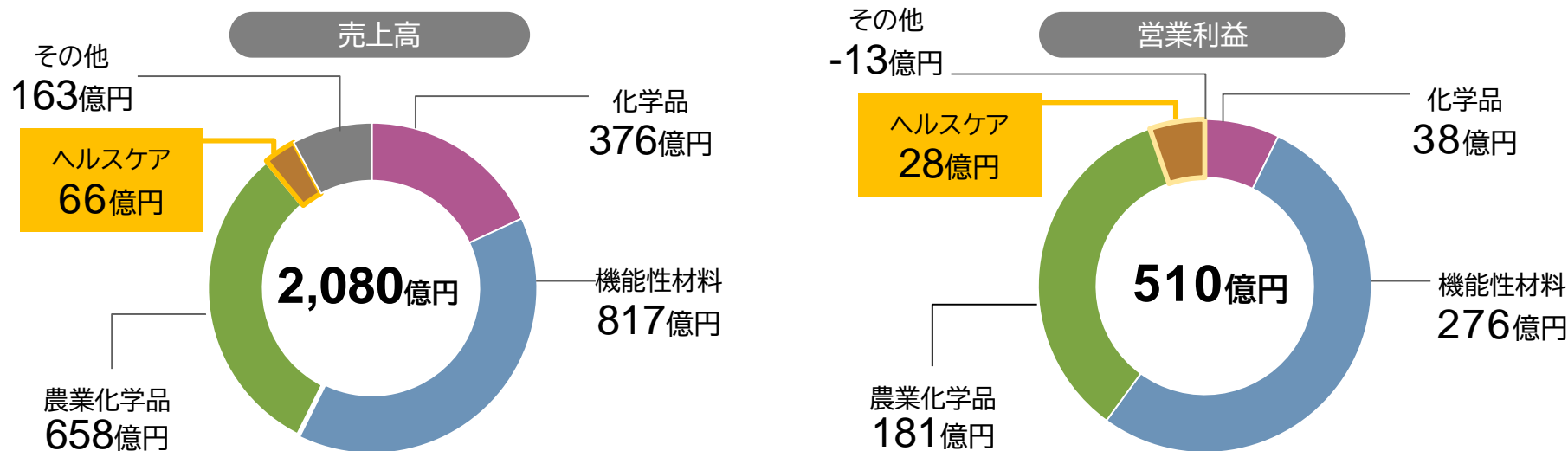
Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンベイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族75.05%
損益状況	2021年度売上高13,012百万ルピー、税引後利益1,760百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana)ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Certis Agriscienceがタルガ、パルサー、パーミットをインド国内で販売

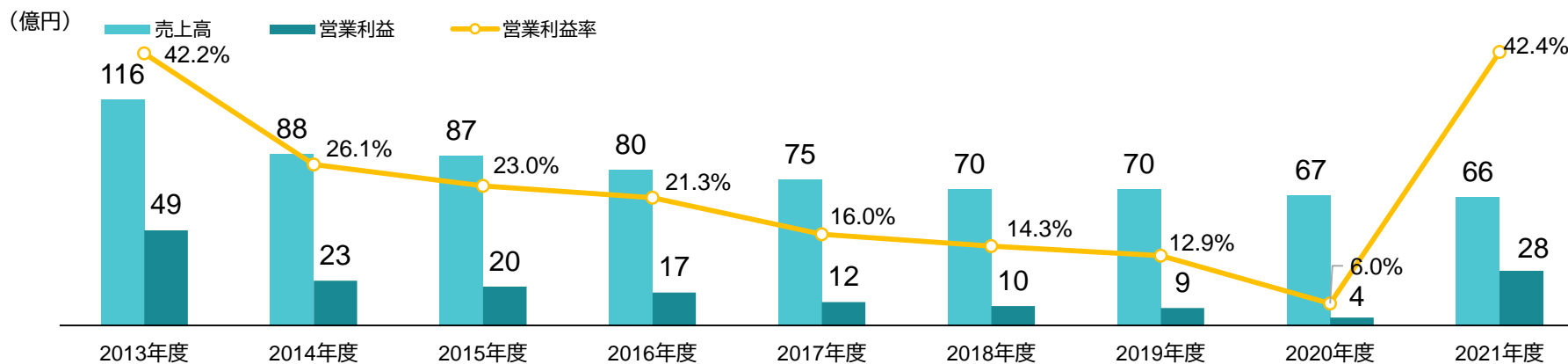
当社メリット

- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

2021年度セグメント別業績※



ヘルスケアセグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

【1Q】売上高+5.8億円、営業利益+4.6億円

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	10.7	16.5	+5.8
ヘルスケア	6.3	8.3	+2.0
ファインテック	4.4	8.2	+3.8
営業利益	3.0	7.6	+4.6
ヘルスケア	2.0	3.9	+1.9
ファインテック	1.0	3.7	+2.7

※ p12,p13,p44,p45,p66,p67では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

【1Q】増収・増益

ヘルスケア

リバロ

【1Q】増収(国内・輸出とも増収)

ファイン
テック

【1Q】増収・増益

今期販売は1Q偏重により増収

主要製品売上高成長率

	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成・ 予想値は非開示)
リバロ	+37%	上ぶれ
ファインテック	+86%	上ぶれ
セグメント合計	+55%	上ぶれ

【1Q】売上高+0.6億円、営業利益+1.4億円

(億円)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	15.9	16.5	+0.6
ヘルスケア	7.9	8.3	+0.4
ファインテック	8.0	8.2	+0.2
営業利益	6.2	7.6	+1.4
ヘルスケア	3.3	3.9	+0.6
ファインテック	2.9	3.7	+0.8

※ p12,p13,p44,p45,p66,p67では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア

【1Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ

リバロ

売上高上ぶれ(国内下ぶれ、輸出上ぶれ)

ファイン
テック

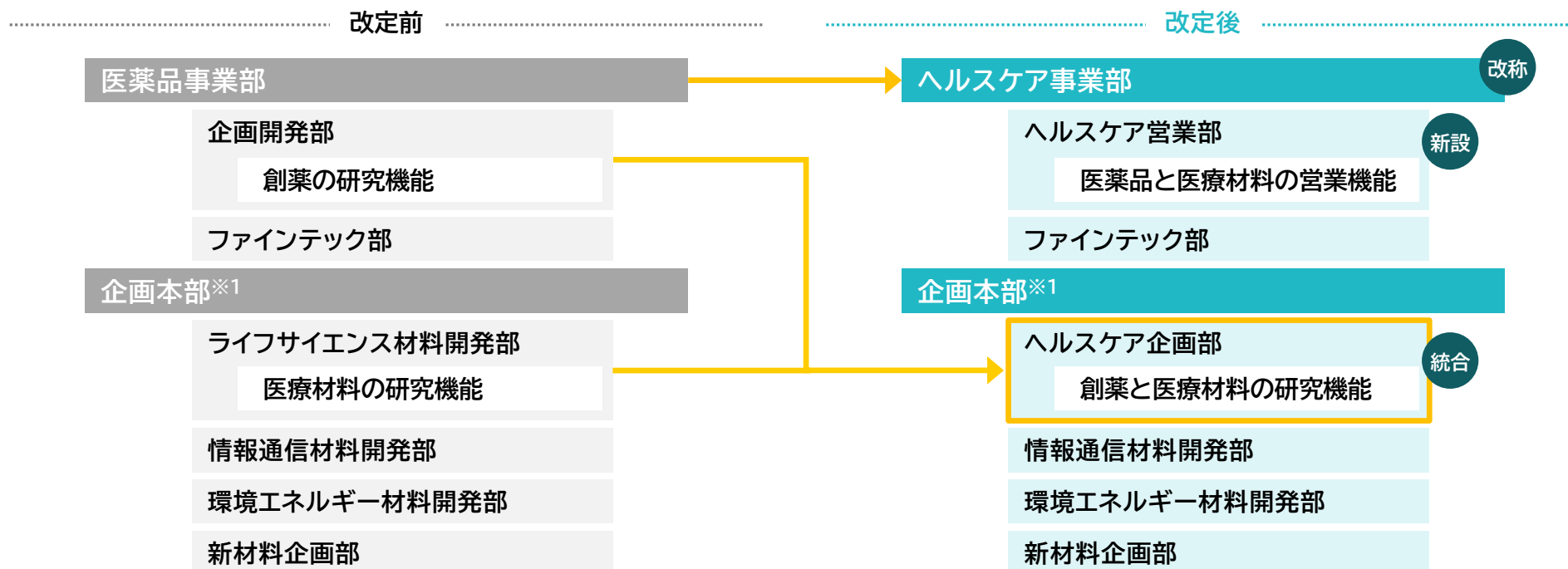
【1Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ

ジェネリック原薬上ぶれで売上高上ぶれ

事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施

医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

目的 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)



※1 企画本部は、セグメントでは「調整額」に含まれる。
企画本部の2021年度実績および2022、2024、2027年度予想の売上高・営業利益はp56に記載

(億円)

	2021年度 実績 (組織改定前ベース)					2021年度 実績 (組織改定後ベース)					組織改定 前後差				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
化学品	13	-1	13	13	38	13	-1	13	13	38	0	0	0	0	0
機能性材料	70	62	76	69	277	69	62	76	69	276	-1	0	0	0	-1
農業化学品	41	29	31	82	183	40	29	30	82	181	-1	0	-1	0	-2
ヘルスケア	-2	7	4	0	9	3	11	9	5	28	+5	+4	+5	+5	+19
ヘルスケア	-3	-2	-3	-3	-11	2	2	2	2	8	+5	+4	+5	+5	+19
ファインテック	1	8	8	3	20	1	8	8	3	20	0	0	0	0	0
卸売	7	6	8	8	29	7	6	8	8	29	0	0	0	0	0
その他	1	-1	2	5	7	1	-1	2	5	7	0	0	0	0	0
調整額	-11	-8	-8	-6	-33	-14	-12	-12	-11	-49	-3	-4	-4	-5	-16
合計	119	94	126	171	510	119	94	126	171	510	0	0	0	0	0

※1 2021年度実績(組織改定前)のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント

※2 ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※3 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※4 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

※5 売上高は、組織改定の影響なし

新中期経営計画の実現に向け、事業領域の選択と集中を加速

注力する事業領域	主な取り組み
ヘルスケア	核酸医薬 <ul style="list-style-type: none"> 当社独自の核酸創薬基盤技術を活用し、資源の8割を投入 製薬各社との共同創薬の着実な推進及びルクサナバイオテック株式会社との戦略的提携（核酸標的7テーマ確保）
	低分子医薬 創薬ベンチャーとの協業（10から3テーマに）、AI活用（既存創薬からの転換）
	医療材料 生体界面制御材料、化粧品材料等
ファインテック	既存ビジネスモデルの強化に加え、共同開発も指向（ペプチド等）

資源投入

	(人、概数)			
	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究者数	75	15	20	20
ヘルスケア	65	5	5	5
ファインテック	10	10	15	15
参考 企画本部ヘルスケア研究者数	35	90	85	90

	(億円)			
	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究開発費	21.3	7.4	10.3	11.2
ヘルスケア	18.0	3.1	5.2	5.3
ファインテック	3.3	4.3	5.1	5.9
参考 企画本部移管影響 (B)	-	14.5	12.6	12.7

計数計画

		(億円)			
		2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
売上高		66.3	59.4	72.3	114.8
ヘルスケア	既存製品	24.2	21.3	11.3	9.0
	新製品	0.4	0.0	4.4	20.8
ファインテック	既存製品	41.7	38.1	50.6	57.9
	新製品	0.0	0.0	6.0	27.1
営業利益 (A)		9.5	20.9	21.5	42.9
ヘルスケア		-10.7	5.3	-7.0	-1.0
ファインテック		20.2	15.6	28.5	43.8
参考	企画本部移管前の実質営業利益 (A)-(B)	9.5	6.4	8.9	30.2

※ 2021年度実績のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント

Contents

01

2022年度第1四半期 連結決算報告 P3

02

2022年度第1四半期 セグメント概況 P11

03

2022年度通期 業績予想 P41

04

ESGトピックス P46

05

参考資料 P55

上期及び通期業績予想を上方修正

1Q実績に、2～4Qは2022年5月発表予想値を合算して、今回業績予想を策定

(ただし、2Qのディスプレイ材料は、売上高-16億円、営業利益-11億円修正。

1Qに当初計画していた特別利益(有価証券売却益)3億円は、下期計上予定に修正)

上期	前年同期比
----	-------

- 売上高は136億円増収(+15%)
- 営業利益は63億円増益(+29%)、純利益は49億円増益(+30%)
- 営業利益・経常利益・純利益は2年連続過去最高益を更新

通期	前年同期比
----	-------

- 売上高は153億円増収(+7%)
- 営業利益は41億円増益(+8%)、純利益は29億円増益(+8%)
- 営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新
- ROE予想は19.6%

上期・通期	前回業績予想比
-------	---------

- 売上高は43億円上ぶれ
- 営業利益は16億円上ぶれ、純利益は21億円上ぶれ

株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%(2022年5月発表から変更なし)
- 自己株式取得50億円完了(取得期間:2022年5～6月)
- 年間配当は前回予想154円から162円に増額(中間・期末ともに4円増額)

配当	通期162円 中間70円、期末92円、配当性向54.8% 【前年比】中間20円増配、期末20円増配 【2022年5月発表予想比】中間4円増配、期末4円増配
自己株式取得	50億円、683千株取得済(取得期間:2022年5～6月)(2021年度実績 120億円、2,033千株)
自己株式消却	1百万株消却済(2022年5月)
総還元性向目標	75%(配当162円と自己株式取得50億円に基づけば66.7%)

2022年度業績予想

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2022年5月発表)					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q 実績	2Q	上期	下期	年間
売上高	465	453	918	1,162	2,080	524	487	1,011	1,179	2,190	583	471	1,054	1,179	2,233
営業利益	119	94	213	297	510	146	114	260	275	535	173	103	276	275	551
営業外損益	4	6	10	17	27	6	-3	3	3	6	22	-3	19	3	22
経常利益	123	100	223	314	537	152	111	263	278	541	195	100	295	278	573
特別損益	0	0	0	5	5	3	0	3	2	5	0	0	0	5	5
純利益 ^{※1}	88	75	163	225	388	112	81	193	203	396	139	73	212	205	417
EBITDA ^{※2}	142	118	260	352	612	-	-	312	339	651	197	131	328	339	667
EPS(円/株)	61.73	52.21	113.94	157.94	271.88	-	-	136.77	144.13	280.90	98.13	51.99	150.12	145.71	295.83
配当(円/株)	-	-	50	72	122	-	-	66	88	154	-	-	70	92	162
配当性向(%)	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	54.8%	-	-	-	-	54.8%
配当総額	-	-	71	102	173	-	-	93	124	217	-	-	99	129	228
売上高営業利益率	25.5%	20.9%	23.2%	25.5%	24.5%	27.9%	23.4%	25.7%	23.3%	24.4%	29.6%	21.9%	26.2%	23.3%	24.7%
ROE	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	19.6%
為替レート(円/ドル)	110	110	110	115	112	115	115	115	115	115	130	115	115	115	115
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	67	73	70	83	77	88	88	88	88	88	111	88	88	88	88

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

セグメント別 2022年度通期 前年同期比

(億円)

		2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)					前年同期比				
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q 実績	2Q	上期	下期	年間	1Q 実績	2Q	上期	下期	年間
化学品	売上高	88	83	171	205	376	104	91	195	193	388	+16 (+18%)	+8 (+10%)	+24 (+14%)	-12 (-6%)	+12 (+3%)
	営業利益	13	-1	12	26	38	17	-2	15	8	23	+4 (+36%)	-1 (-)	+3 (+24%)	-18 (-68%)	-15 (-40%)
機能性材料	売上高	200	196	396	421	817	218	206	424	465	889	+18 (+9%)	+10 (+5%)	+28 (+7%)	+44 (+10%)	+72 (+9%)
	営業利益	69	62	131	145	276	79	63	142	160	302	+10 (+14%)	+1 (+2%)	+11 (+8%)	+15 (+10%)	+26 (+9%)
農業化学品	売上高	134	116	250	408	658	197	135	332	422	754	+63 (+47%)	+19 (+17%)	+82 (+33%)	+14 (+3%)	+96 (+15%)
	営業利益	40	29	69	112	181	68	38	106	100	206	+28 (+69%)	+9 (+37%)	+37 (+56%)	-12 (-12%)	+25 (+14%)
ヘルスケア	売上高	11	22	33	33	66	17	14	31	29	60	+6 (+55%)	-8 (-37%)	-2 (-8%)	-4 (-10%)	-6 (-9%)
	営業利益	3	11	14	14	28	8	5	13	10	23	+5 (+153%)	-6 (-58%)	-1 (-12%)	-4 (-29%)	-5 (-21%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	32	36	68	95	163	47	25	72	70	142	+15	-11	+4	-25	-21
	営業利益	-6	-7	-13	0	-13	1	-1	0	-3	-3	+7	+6	+13	-3	+10
合計	売上高	465	453	918	1,162	2,080	583	471	1,054	1,179	2,233	+118 (+25%)	+18 (+4%)	+136 (+15%)	+17 (+2%)	+153 (+7%)
	営業利益	119	94	213	297	510	173	103	276	275	551	+54 (+45%)	+9 (+9%)	+63 (+29%)	-22 (-7%)	+41 (+8%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp66,p67参照)

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

セグメント別 2022年度通期 前回業績予想比

(億円)

		2022年度 業績予想 (2022年5月発表)					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)					前回業績予想比
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q	上期	下期	年間	上期・年間
化学品	売上高	102	91	193	193	386	104	91	195	193	388	+2
	営業利益	16	-2	14	8	22	17	-2	15	8	23	+1
機能性材料	売上高	212	222	434	465	899	218	206	424	465	889	-10
	営業利益	71	74	145	160	305	79	63	142	160	302	-3
農業化学品	売上高	172	135	307	422	729	197	135	332	422	754	+25
	営業利益	57	38	95	100	195	68	38	106	100	206	+11
ヘルスケア	売上高	16	14	30	29	59	17	14	31	29	60	+1
	営業利益	6	5	11	10	21	8	5	13	10	23	+2
卸売・その他・ 調整額	売上高	22	25	47	70	117	47	25	72	70	142	+25
	営業利益	-4	-1	-5	-3	-8	1	-1	0	-3	-3	+5
合計	売上高	524	487	1,011	1,179	2,190	583	471	1,054	1,179	2,233	+43
	営業利益	146	114	260	275	535	173	103	276	275	551	+16

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか(内訳はp66,p67参照)

※ 企画本部の2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

Contents

01

2022年度第1四半期 連結決算報告 P3

02

2022年度第1四半期 セグメント概況 P11

03

2022年度通期 業績予想 P41

04

ESGトピックス P46

05

参考資料 P55

E

(環境)

2021年4月

ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定

2021年9月

「[統合レポート2021](#)」を発行

S

(社会)

2022年5月

2050年にカーボンニュートラルへ
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp54参照)

2022年6月

メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)

G

(ガバナンス)

2019年4月

指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)

2019年6月

取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)

2021年6月

女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)

2022年6月

役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%。
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)

2022年6月

「[コーポレートガバナンス報告書](#)」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2021年11月
4年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

FTSE

- 2022年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に3年連続選定
- 2022年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定



※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

CDP

- 2021年12月
水セキュリティにおいて「Aリスト」
に3年連続選定



健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2022年3月
6年連続認定



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2022年3月
4年連続で構成銘柄に選定



MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2022年6月 構成銘柄に選定

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



東京証券取引所「企業価値向上表彰」

- 2020年1月
表彰候補50社に2年連続選定

2027年の企業像実現のため、当社が取組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
取組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答者
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶3

レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な取り組み
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再生可能エネルギー拡大に貢献する材料の開発 ■ サーキュラーエコノミー実現に貢献する材料の開発 ■ 農薬散布量の削減 ■ リサイクル可能な包材の導入 ■ 排ガス除去材料の提供 ■ 浄化槽の殺菌消毒剤の提供 ■ 油脂廃棄物削減を可能にする材料の提供
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ通信の大容量化・高速化、センシングに貢献する材料の提供
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食料生産の収量拡大と省力化を実現する農薬の提供 ■ 家畜の健康維持への貢献
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 飲料水用殺菌消毒剤の提供 ■ ペット用動物薬原薬の提供
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェネリック医薬品の提供 ■ 医薬品受託製造・サービスの提供 ■ 再生医療分野向け材料の開発 ■ 難治性疾患治療薬の開発

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な製品・サービス	2027年度目標 (2021年度比)
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 二次電池材料 ■ 光電変換材料 ■ CCU/CCUS材料 ■ エコプロモート ■ ラウンドノズル ULV5 ■ グリーンダイセン ■ アドブルー® ■ ハイライト ■ ビーナソイルクリーン 	売上高 +10%
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディ스플레이材料 ■ 半導体材料 ■ センサー材料 ■ 光配線材料 	売上高 +55%
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農薬 ■ フルララネル(家畜用) 	売上高 +15%
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイライト(飲料水用) ■ フルララネル(ペット用) 	売上高 +15%
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ マキサカルシトール他 ジェネリック医薬品 ■ 医薬品受託製造・サービス ■ 核酸医薬品 ■ FCeMシリーズ ■ prevelexシリーズ 	売上高 +5%
社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合 日産化学サステナブルアジェンダ		55% 以上維持

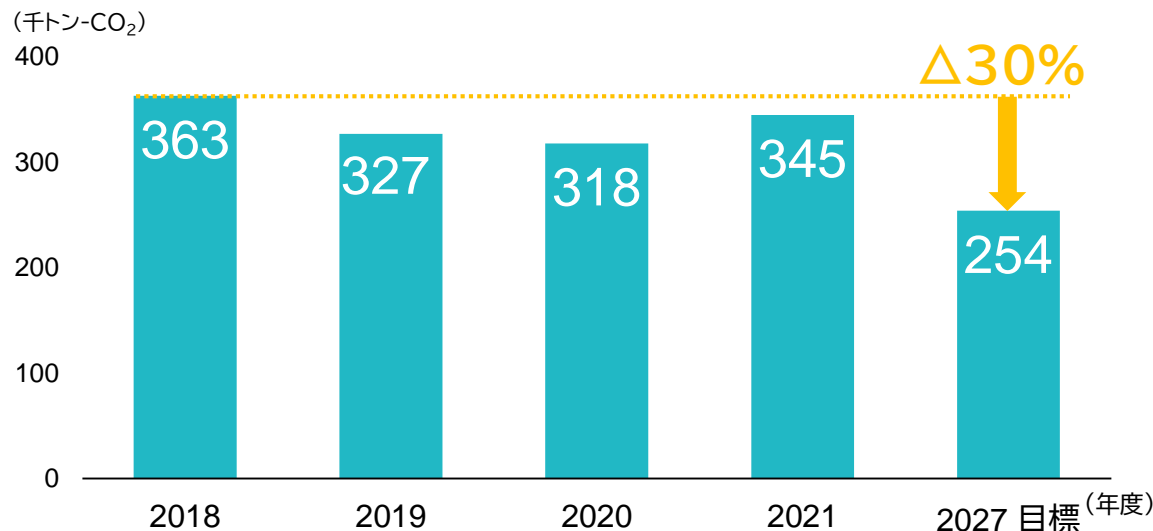
多様化・高度化する市場要求への対応力を高めるため、人的資本の充実など、事業基盤を強化する

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
研究開発力の強化	<ul style="list-style-type: none"> AIの活用による研究開発の迅速化 コア技術の拡充 オープンイノベーションの更なる活用 	特許出願数(2022~2027年度累計):2,500件
製品の品質向上	<ul style="list-style-type: none"> 重大クレームの未然防止 品質不正・データ改ざんの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> 重大クレーム数 ゼロ件 品質教育:受講率90%以上
従業員の健康維持向上	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病対策の推進 メンタルヘルス対策の実施 社員への健康維持に関する啓蒙活動 女性の健康づくり推進 	適正体重者※:70%以上 ※BMI(肥満度)指数:18.5-25.0
働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスの推進 ハラスメント対策の実施 育児・介護支援、男性育休取得推奨 	年次有給休暇取得率:80%以上
人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> 新人事制度(役割等級制度)導入 キャリア開発強化 自己啓発支援プログラムの充実 	人材育成に関する社員意識調査 肯定回答率:65%以上
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍推進 外国人留学生の採用 障がい者雇用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 総合職に占める女性比率:13%以上 研究所女性総合職比率:18%以上
公正な取引の推進	<ul style="list-style-type: none"> 公正な取引に関する社内研修会の開催、その他の教育啓蒙活動の実施 コンプライアンス教育啓蒙活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 独禁法違反ゼロ 外国公務員贈賄ゼロ
サステナブル調達の推進	<ul style="list-style-type: none"> サステナブル調達アンケート結果のフィードバック 当社基準未達サプライヤーへの改善支援 	当社基準未達サプライヤーへの改善支援:90%以上
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害発生時における事業活動のレジリエンス維持向上 	経常利益50%を占める製品のBCP更新整備

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、GHG排出量の削減を中心にレスポンシブル・ケア活動に継続的に取り組む

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ■ GHG排出量の削減 	GHG排出量: 2018年度比30%削減 (2030年度目標を3年前倒し)
労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 労働安全マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休業災害ゼロ ■ 労災件数: 2020年度比半減
生物多様性への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物多様性保全活動の推進 	日産化学本社工場におけるバイオパーク設置・運営
化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 化学物質使用に関する法令遵守 	重大法令違反ゼロ継続
産業廃棄物・汚染物質の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業廃棄物・汚染物質最終処分量の削減 	日産化学本社工場での最終処分割合削減 (2020年度比)
保安・防災	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保安防災マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 火災・爆発・外部漏洩ゼロ ■ 保安事故ゼロ

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- 2021年度のGHG排出量は、2020年度比で27千トン-CO₂増加
 (増加要因) ・アンモニア系製品の生産量増加により、製造時のCO₂排出量、天然ガス使用量、電力使用量の増加
 ・硝酸製品の生産量増加により、製造時のN₂O排出量の増加
 ・富山共同自家発電の工事(水力発電供給減少)により、非再生可能電力の使用量増加



■ 他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂)

年度	2011	2018	2019	2020	2021
日産化学	448	363	327	318	345
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-

中期経営計画 Vista2027
(2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

Contents

01

2022年度第1四半期 連結決算報告 P3

02

2022年度第1四半期 セグメント概況 P11

03

2022年度通期 業績予想 P41

04

ESGトピックス P46

05

参考資料 P55

中期経営計画 Vista2027(2022-2027年度)

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

		2021年度 実績 ^{※1}	2022年度 予想 ^{※2}	2024年度 中計	2027年度 中計	2024年度 vs. 2021年度	2027年度 vs. 2021年度
化学品	売上高	376	388	376	401	0	+25
	営業利益	38	23	35	39	-3	+1
機能性材料	売上高	817	889	1,029	1,172	+212	+355
	営業利益	276	302	321	380	+45	+104
農業化学品	売上高	658	754	778	823	+120	+165
	営業利益	181	206	217	210	+36	+29
ヘルスケア	売上高	66	60	72	115	+6	+49
	営業利益	28	23	21	43	-7	+15
卸売・その他・ 調整額	売上高	163	142	295	339	+132	+176
	営業利益	-13	-3	-9	-2	+4	+11
企画本部 ^{※3}	売上高	0	0	13	44	+13	+44
	営業利益	-49	-52	-47	-47	+2	+2
合計	売上高	2,080	2,233	2,550	2,850	+470	+770
	営業利益	510	551	585	670	+75	+160

※1 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照) ※2 2022年8月発表予想 ※3 企画本部は卸売・その他・調整額の内数

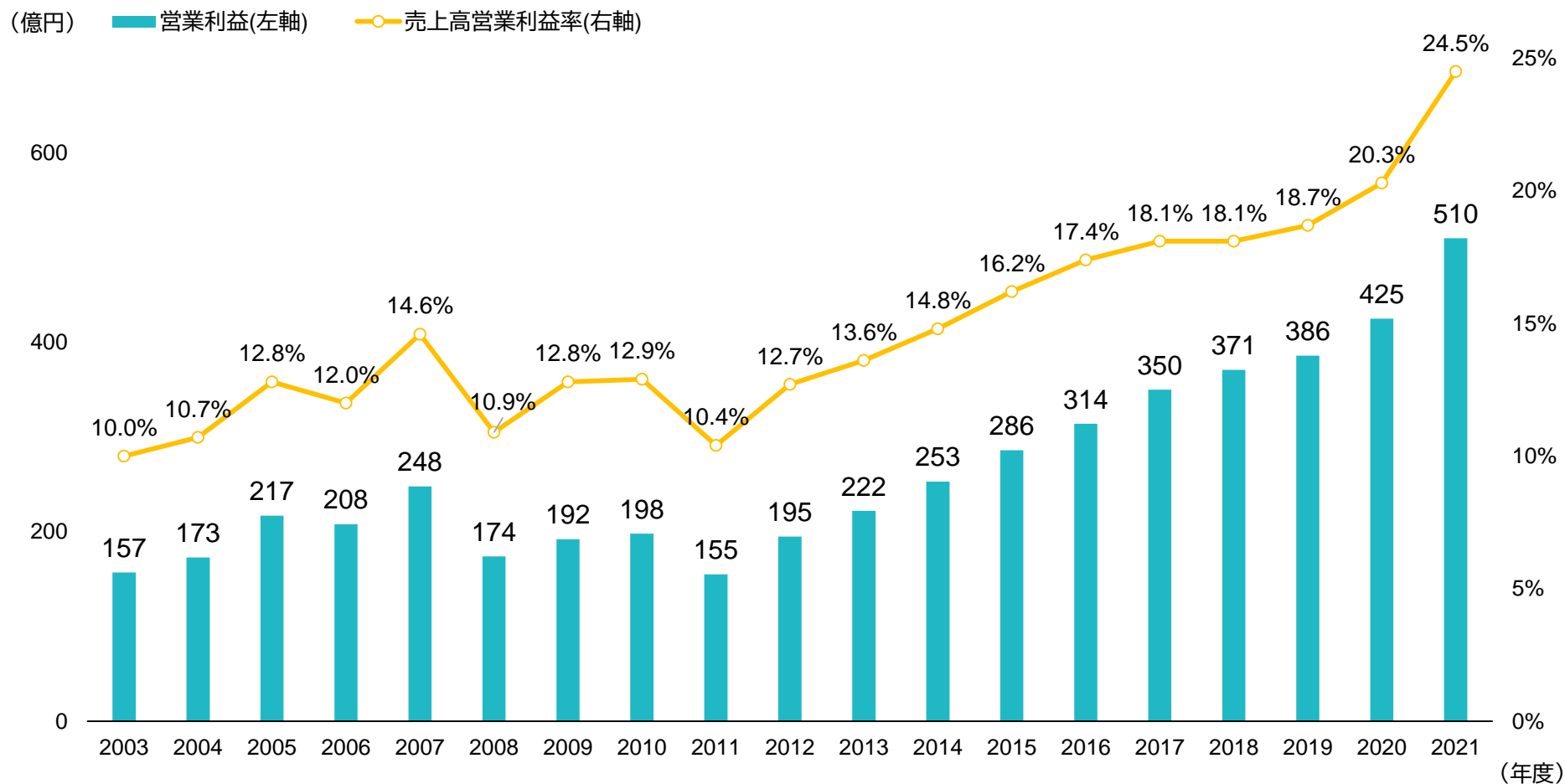
(億円)

ヘルスケア事業部の組織改定の影響

	2024年度 中計	2027年度 中計
研究開発費 企画本部移管影響	13	13

売上高営業利益率の推移

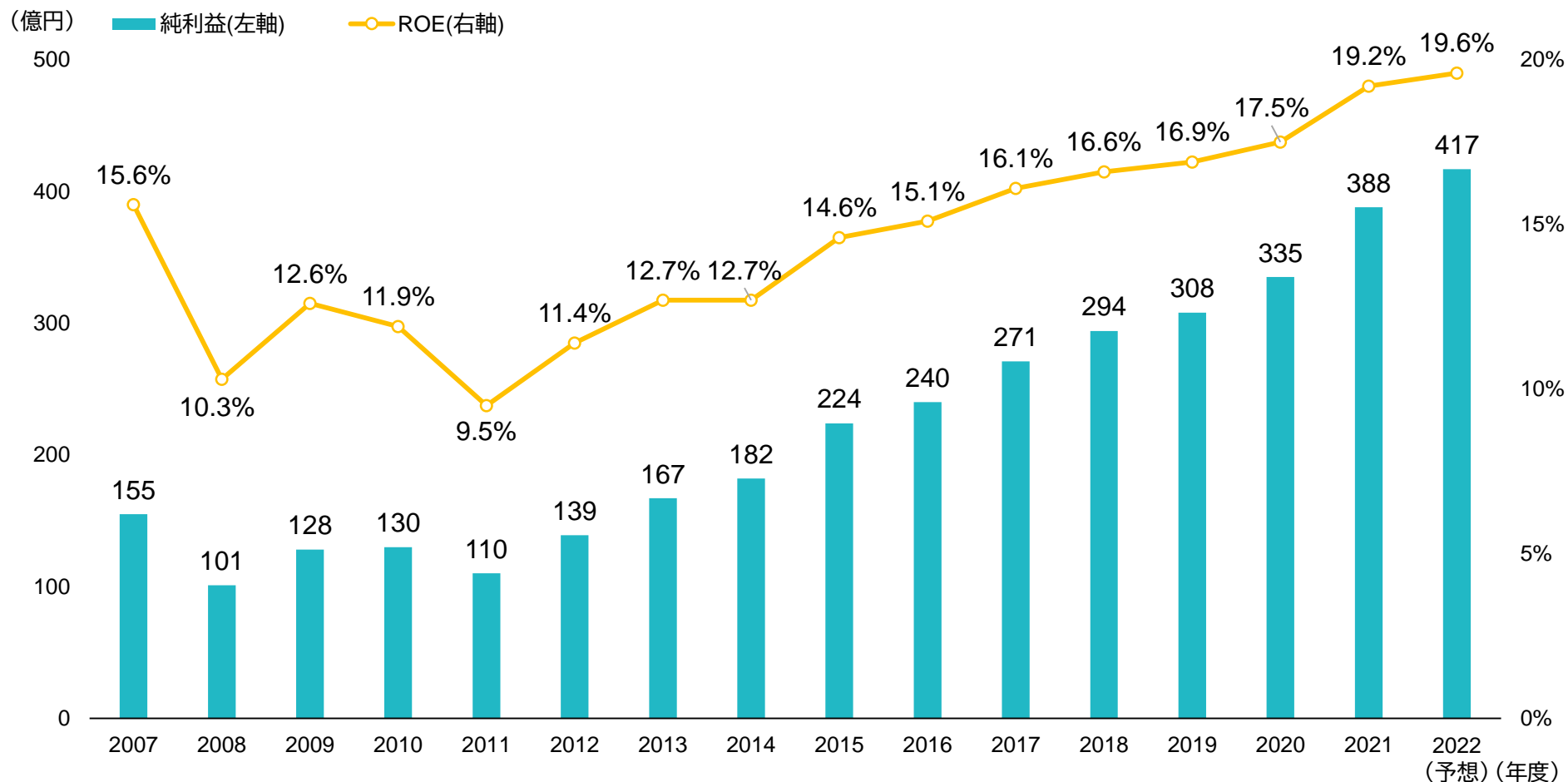
- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降19年連続10%以上)
- 2021年度実績は24.5%



※ 2021年度実績:会計方針の変更影響を含む(p68参照)

ROEの推移

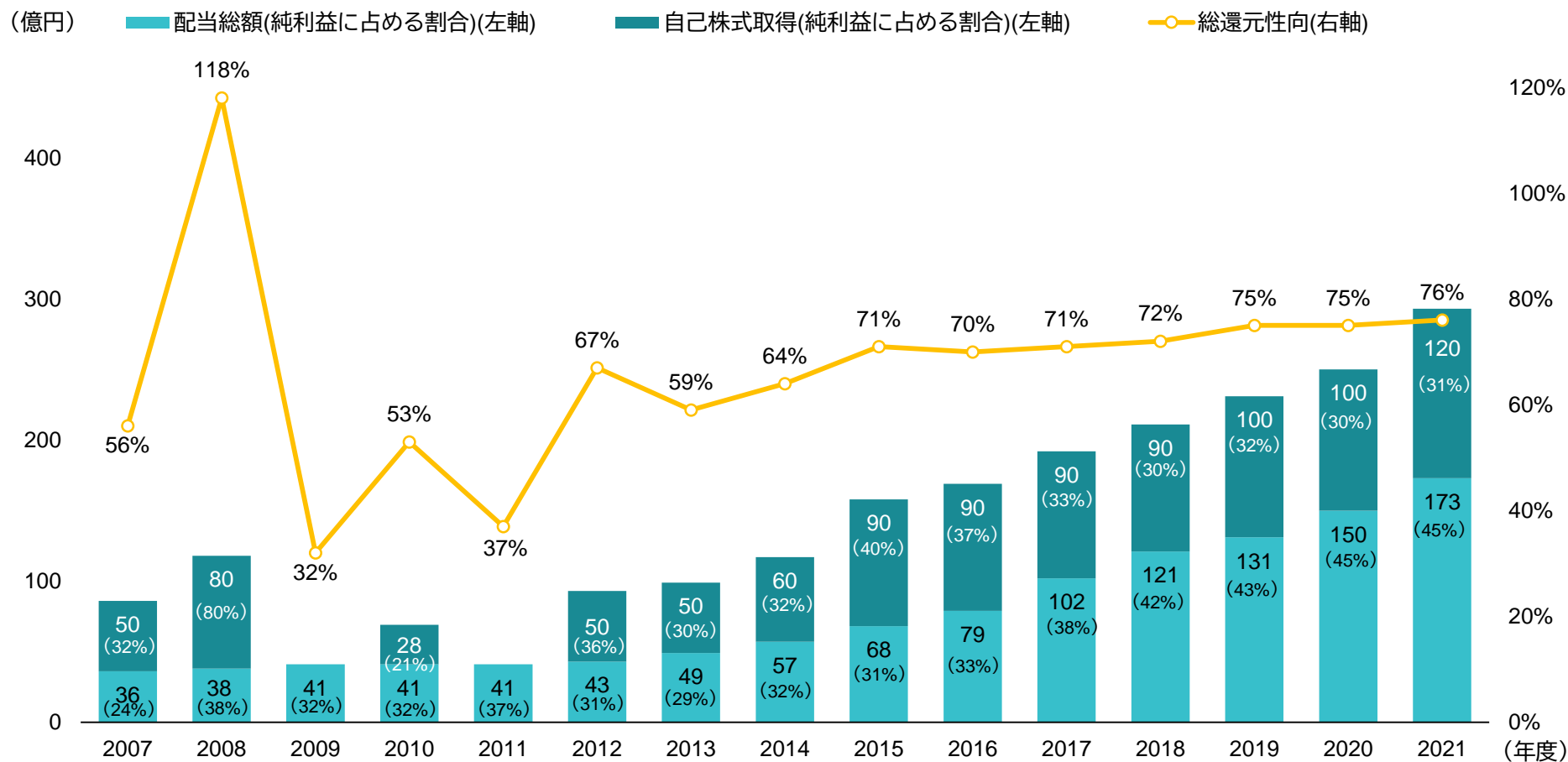
- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2022年度予想は19.6%



※2022年8月発表

株主還元 総還元性向

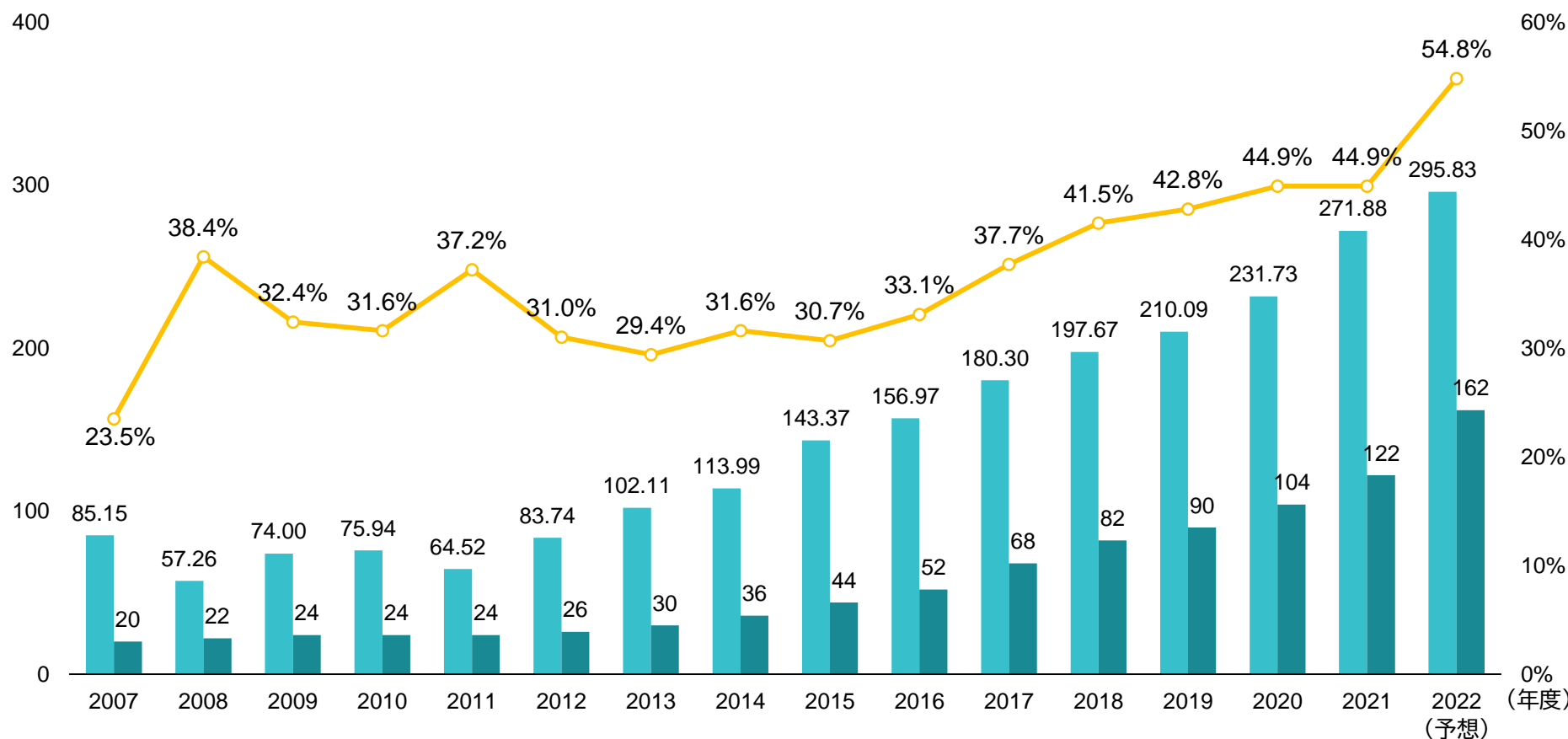
- 配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は60%-70%で推移
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成(2021年度実績は76%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標



株主還元 配当性向

- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2021年度実績は44.9%
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2021年度まで10期連続増配

(円/株) ■ EPS(左軸) ■ 配当(左軸) ○ 配当性向(右軸)



※2022年8月発表

ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-21年度取得総額1,045億円、4,475万株(取得開始前発行済株式の23.8%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式を継続的に取得し、株主還元を強化

2006-2021年度 自己株式取得実績(2009年度、2011年度は自己株式取得なし)

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	2,033	44,748
取得価額総額(億円) ^{※1}	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	1,045
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	2,000	44,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	143	-
期末自己株式数(千株) ^{※2}	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	1,384	-
株主総還元性向 (配当+ 自己株式取得) (%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	76	-

2018-2022年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021			2022
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	1Q
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	771	2,033	683
取得価額総額(億円) ^{※1}	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50	120	50
自己株式消却総数(千株) ^{※3}	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	0	2,000	1,000

※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を除く ※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を含む

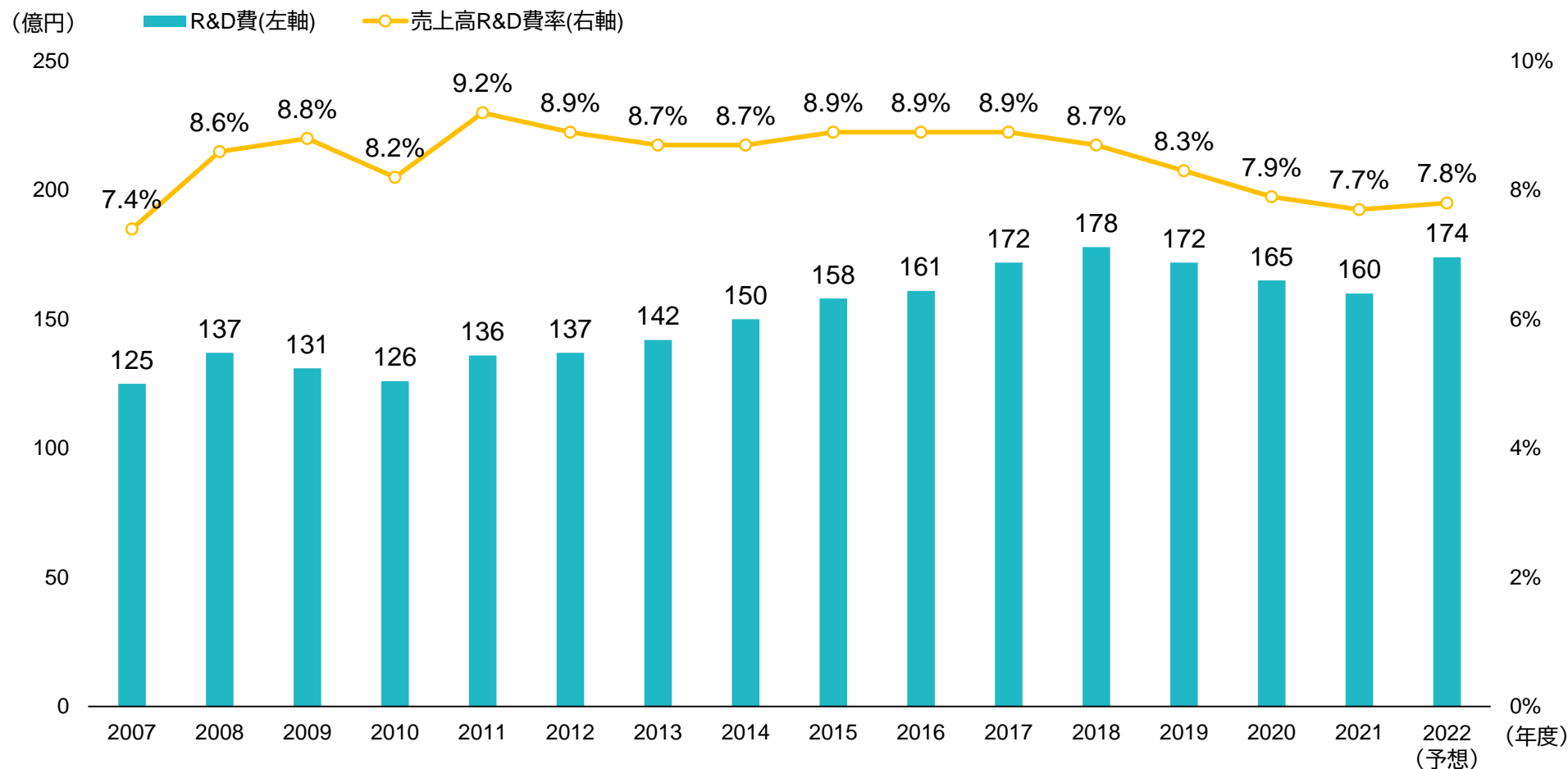
※3 2022年度1Qの自己株式消却は、2022年5月10日消却分

キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

研究開発費の推移

- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業として、研究開発を重視
- 売上高研究開発費率は8-9%と高水準を維持



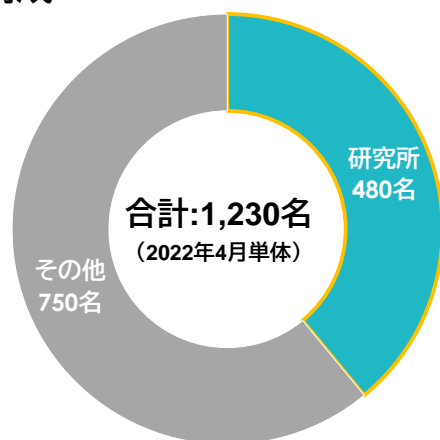
※2022年8月発表

- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

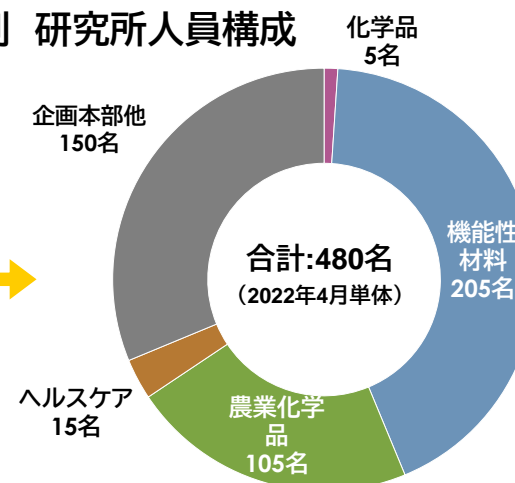
セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 予想(2022年8月発表)				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	388	23	5.9%	4	1.0%
機能性材料	889	302	34.0%	78	8.8%
農業化学品	754	206	27.3%	45	6.0%
ヘルスケア	60	23	38.3%	7	11.7%
企画本部他	-	-	-	40	-
合計(企画本部他含む)	2,233	551	24.7%	174	7.8%

総合職 人員構成



セグメント別 研究所人員構成



※ 表記している人数は概数

長期業績推移

(億円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)
売上高	1,559	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,233
営業利益	157	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	551
経常利益	146	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	439	537	573
純利益	87	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	335	388	417
EBITDA	261	269	316	305	345	276	301	303	259	291	308	338	383	403	455	480	492	530	612	667
売上高営業利益率	10.0%	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	24.7%
ROE	13.4%	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.6%
EPS(円/株)	46.21	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	295.83
配当(円/株)	11	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	104	122	162
配当性向	23.8%	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	54.8%
自己株式取得	-	-	-	47	50	80	-	28	-	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	-
総資産	1,726	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	-
純資産	704	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	-
現預金	59	43	85	110	76	97	148	211	279	319	308	313	353	357	377	362	306	324	347	-
有利子負債	574	446	415	324	344	455	421	399	389	381	361	351	331	308	286	266	246	227	227	-
自己資本比率	40.1%	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	-
設備投資	66	66	92	121	109	139	101	96	83	79	88	98	102	143	137	99	157	158	110	183
減価償却費	104	96	99	97	97	102	110	104	105	95	85	85	97	89	105	109	105	104	102	114
R&D	87	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	165	160	174
同 売上高比率	5.6%	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.8%

※ 2021- :会計方針の変更影響を含む(p68参照)
 ※ 2022(予想):2022年8月発表

セグメント別売上高・営業利益推移

売上高(A)

(億円)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)
化学品	381	369	345	355	343	343	348	349	357	343	319	376	388
機能性材料	380	340	374	428	494	518	528	588	630	655	716	817	889
農業化学品	344	338	354	391	457	475	520	581	627	640	638	658	754
ヘルスケア	96	100	127	116	88	87	80	75	70	70	67	66	60
卸売	441	448	466	507	544	556	552	595	679	679	698	804	877
その他	270	200	212	214	209	209	240	215	246	224	238	236	269
調整額	-370	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-585	-877	-1,004
合計	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,233

営業利益(B)

化学品	24	16	19	19	19	39	38	34	30	13	15	38	23
機能性材料	79	48	72	88	120	120	125	142	150	170	224	276	302
農業化学品	48	44	50	62	92	108	132	164	184	193	182	181	206
ヘルスケア	44	46	52	49	23	20	17	12	10	9	4	28	23
卸売	14	13	14	15	17	18	17	18	20	21	25	29	27
その他	10	3	7	8	6	5	10	6	9	7	8	7	7
調整額	-21	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-33	-49	-37
合計	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	551

セグメント資産

(2021年度)(D)

化学品	321
機能性材料	551
農業化学品	907
ヘルスケア	91
卸売	315
その他	122
調整額	490
合計	2,797

営業利益率(B)/(A)

化学品	6.3%	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	4.7%	10.1%	5.9%
機能性材料	20.8%	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	31.3%	33.8%	34.0%
農業化学品	14.0%	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.5%	27.5%	27.3%
ヘルスケア	45.8%	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	6.0%	42.4%	38.3%
卸売	3.2%	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.6%	3.6%	3.1%
その他	3.7%	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	3.4%	3.0%	2.6%
合計	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	24.7%

ROA(2021年度)

(B)/(D)

化学品	11.8%
機能性材料	50.1%
農業化学品	20.0%
ヘルスケア	30.8%
卸売	9.2%
その他	5.7%
調整額	
合計	18.2%

※ 2010-11：旧セグメント(2011年6月組織変更前)、2012-：新セグメント(2011年6月組織変更後)

※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 2021-：会計方針の変更による売上高減少を含む(p68参照)

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)。セグメント資産(2021年度)はセグメント区分変更前ベース

※ 2022(予想)：2022年8月発表

※ 2019-22予想：新方式セグメント別営業利益

1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)

2. 2019年度は遡及して再計算

3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

セグメント別売上高 四半期推移(2019年度～2022年度業績予想)

(億円)

	2019年度 実績					2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)				2022年度 予想 (2022年5月発表)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q 実績	2Q	下期	年間	1Q	2Q	下期	年間
化学品	84	84	87	88	343	74	73	83	89	319	88	83	105	100	376	104	91	193	388	102	91	193	386
ファインケミカル	26	26	26	27	105	27	27	28	32	114	32	30	37	32	131	42	36	74	152	37	36	74	147
基礎化学品	58	58	61	61	238	47	46	55	57	205	56	53	68	68	245	62	55	119	236	65	55	119	239
機能性材料	151	163	170	171	655	171	175	192	178	716	200	196	209	212	817	218	206	465	889	212	222	465	899
農業化学品	147	132	55	306	640	146	111	63	318	638	134	116	119	289	658	197	135	422	754	172	135	422	729
ヘルスケア	19	15	16	20	70	15	15	14	23	67	11	22	20	13	66	17	14	29	60	16	14	29	59
ヘルスケア	14	7	9	10	41	7	8	6	8	29	6	8	5	6	25	8	4	9	22	8	4	9	21
ファインテック	5	8	6	10	29	8	7	8	15	38	4	15	14	8	41	8	10	20	38	8	10	20	38
卸売	175	158	175	171	679	182	155	178	183	698	178	186	222	218	804	237	200	440	877	197	200	440	837
その他	49	49	51	75	224	48	46	68	76	238	49	55	61	71	236	65	60	144	269	61	60	144	265
調整額	-138	-123	-139	-143	-543	-143	-123	-161	-158	-585	-195	-205	-241	-236	-877	-255	-235	-514	-1,004	-236	-235	-514	-985
合計	487	478	415	688	2,068	493	452	437	709	2,091	465	453	495	667	2,080	583	471	1,179	2,233	524	487	1,179	2,190

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 2020年度より、ファインオキシコールを基礎化学品からファインケミカルへ移管している

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2019～2020年度実績は旧セグメント区分(p38,p39参照)

セグメント別営業利益 四半期推移(2019年度～2022年度業績予想)

(億円)

	2019年度 実績					2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)				2022年度 予想 (2022年5月発表)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q 実績	2Q	下期	年間	1Q	2Q	下期	年間
化学品	9	-6	5	5	13	7	-8	7	9	15	13	-1	13	13	38	17	-2	8	23	16	-2	8	22
機能性材料	40	44	47	39	170	53	54	63	54	224	69	62	76	69	276	79	63	160	302	71	74	160	305
農業化学品	45	49	-18	117	193	40	38	-13	117	182	40	29	30	82	181	68	38	100	206	57	38	100	195
ヘルスケア	4	1	1	3	9	-1	1	0	4	4	3	11	9	5	28	8	5	10	23	6	5	10	21
ヘルスケア	2	-2	-2	0	-1	-2	-1	-4	-2	-9	2	3	2	2	8	4	1	1	6	3	1	1	5
ファインテック	2	3	2	4	11	2	2	3	6	13	1	8	8	3	20	4	4	9	16	3	4	9	16
卸売	5	5	6	5	21	7	5	7	6	25	7	6	9	7	29	10	6	11	27	6	6	11	23
その他	1	0	1	5	7	0	0	4	4	8	1	-1	2	5	7	1	-1	7	7	2	-1	7	8
調整額	-11	-6	-7	-3	-27	-8	-8	-12	-5	-33	-14	-12	-13	-10	-49	-10	-6	-21	-37	-12	-6	-21	-39
合計	93	87	35	171	386	98	82	56	189	425	119	94	126	171	510	173	103	275	551	146	114	275	535

※ 2019-22予想 :新方式セグメント別営業利益(p65参照)

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2019～2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

会計方針の変更(2021年度～)

1. 方針の変更 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用
2. 適用時期 2021年4月1日より
3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比) (億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず ■ 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) ■ 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

主要製品用途一覧

セグメント	製品名	主用途			
化学品	ファインケミカル	デピック	エポキシ樹脂： ソルダーレジストインク材料、LED封止材料、粉体塗料硬化剤		
		メラミンシアヌレート	難燃剤		
		ハイライト	塩素化イソシアヌル酸： プール、浄化槽用殺菌消毒剤		
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料		
	基礎化学品	メラミン	合板用接着剤		
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水		
高純度硫酸		半導体用洗浄剤			
機能性材料	電子材料	サンエバー	液晶配向材用ポリイミド		
		ARC®(KrF、ArF)	半導体用反射防止コーティング材		
		OptiStack®(多層材料)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC)		
		OPTIFOCUS	イメージセンサー用マイクロレンズ材料		
		エルソース	有機EL用塗布型ホール注入材		
	無機コロイド	スノーテックス	コロイダルシリカ： 研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板		
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル： フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤		
		アルミナゾル	自動車用触媒、電子機器		
		サンコロイド	眼鏡レンズ用高屈折率ゾル		
		セルナックス	フィルム用帯電防止		
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材		
		農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
				パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
シリウス	稲				
ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園				
アルデア	稲				
殺虫剤	サンマイト、マイトコーネ、スターマイト		果樹、かんきつ、茶、野菜		
	グレーシア		野菜、茶		
殺菌剤	パルサー、イカルガ、グレータム(チフルザミド)		ばれいしよ、稲、芝		
	ライメイ		ばれいしよ、野菜、ブドウ		
	クインテック(キノキシフェン)		果樹、野菜		
	ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜			
動物医薬品	フルララネル	ペット用外部寄生虫薬ブラベクト、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT原薬			
	リバロ原薬	高コレステロール血症治療薬			
	ファインテック	課題解決型受託事業およびジェネリック製品開発			
ヘルスケア					

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標

※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
